

豪雨・停電に備える！ 紙に頼らない安心経営

～ クラウドと社内連絡体制で進める“やさしいデータ防災”BCP対策への一歩 ～

今年の夏も全国で線状降水帯による豪雨が発生し、大きな被害が報じられました。北海道でも発生予想が出るようになり、もはや「うちは大丈夫」とは言えません。建物は再建できても、一度失ったデータは戻らない—これは経営に直結するリスクです。

が重要です。オフィスが被災しても別の場所から業務を再開でき、経営の命綱となります。



また、災害時に事業を止めないためには **社員・取引先との連絡体制** づくりが不可欠です。

固定電話や会社メールが使えない状況に備え、LINE や Teams など複数の連絡手段を持ち、緊急連絡網を社員間で共有しておくで安心です。

さらに、クラウド共有のルールを明確にし、権限設定や定期点検を行うことで混乱を防げます。

実際、九州豪雨で社屋が水没し

た企業は、クラウドに請求書や顧客データを保存していたことで数日で業務を再開できました。逆に紙の伝票だけに頼っていた企業は顧客情報を失い、売掛金回収にも支障が出ました。両者の差を分けたのは「データ防災」でした。



今日からできる
“やさしいデータ防災”の一歩

◇ **重要データは紙だけでなくクラウドにも保存**

◇ **社員連絡網を社員間で共有し、非常時に備える**

◇ **年1回は「災害時の連絡・データアクセス訓練」を実施**

まさに、データ防災＝会社の命綱と言えるでしょう。

災害は防げなくても、備えは今すぐ始められます

まずは一歩、社員に「**情報資産は会社の命**」あることお話しすることから取り組んでみてください。

災害は予告なしです。だから

「防災・BCP対策」は日常の延長で少しずつ取り組む経営の大切な課題です。

社員さんやお客様とのつながり、そして大切なデータを守るために、できることから一緒に進めていきましょう。お気軽にご相談ください。



中小企業では今も「紙の帳簿・伝票・契約書」に頼るケースが多く見られます。

しかし水害や火災に見舞われれば、紙は一瞬で失われます。だからこそ **電子化+クラウド保存**

